

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2期終了時には、全国の盲学校に医療マッサージ指導者が誕生する。</li> <li>・訓練を受けた視覚障害者の医療マッサージ師が一般社会に進出し、社会的・経済的自立を果たす。</li> <li>・本年度の指導実習を基に各盲学校の現状にあった指導カリキュラム、教科書表記を見直し、事業終了時には全国で統一した標準指導カリキュラムを作成する。</li> </ul>
(2) 事業の必要性(背景)	<p>(イ) ミャンマーの視覚障害者は統計上約18万人とされているが、実際には30~40万人いると考えられている。そして全国の盲学校に通っている生徒を合計しても1000人に満たない。また盲学校へ入学し一般教育を受けた者でも、経済的、社会的に自立できる者はほとんどいないのが現状である。</p> <p>全国の盲学校8校中6校が職業訓練としてマッサージ指導を取り入れており、それにより経済的、社会的自立を目指す者が多い。しかし専門知識を持った指導者はおらず、マッサージ手技のみの指導に留まっているのが現状である。都市部ではリラクゼーションマッサージ店も数多くあり、そういった一般社会の中で視覚障害者が医療マッサージで経済的・社会的自立を実現するには、専門性を持つ事で差別化を図っていくことが重要であると考えます。</p> <p>以上の背景からH22年度5月より医療マッサージの専門知識を持った指導者育成を目的とした訓練センターを開校した。</p> <p>全国8校の盲学校から12名の訓練生を受け入れているが、盲学校ごとに教育環境、教育内容、水準に差があることがわかった。各地域また各学校の経営者の特性によるところが大きく、外部からの支援では簡単に教育内容を充実させることは容易ではない。しかし、各盲学校と連携を図り、各盲学校の設備や特性を把握することで各盲学校に対し適切な支援を行っていく。</p> <p>(ロ) 盲学校ごとの教育水準に差はみられるが、前年度同様に全国8校の盲学校から第2期生を受け入れ指導を行う。第1期生の指導実習の環境が整っていない2校に関してはマッサージ施設の建設を行い医療マッサージの指導実習が行なえる環境を整えていく。</p> <p>また、18万人のうち盲学校へアクセス出来ない者が殆どであり、彼らのニーズ調査を行うと共に医療マッサージ指導による自立の可能性を啓蒙する活動を並行して行う必要があると考える。</p>
(3) 事業内容	<p>(イ)、全国8校の盲学校より第2期生となる12名を選び、彼らに対し2年間医療マッサージの指導を行う。</p> <p>第1期生12名に関しては、出身の盲学校へ戻り、そこで標準医療マッサージカリキュラムを基に指導実習を行う。第1期生への指導は通信制をとり、技術チェックは2カ月に1度行っていく。</p>

	<p>技術チェックに関しては2カ月毎、計年4回、ミャンマーの中心部であるマンダレー周辺の盲学校に第1期生を集め直接技術チェックを行っていく。</p> <p>(ロ) 2014年までに標準指導カリキュラムを社会福祉省に認可を得る事をめざす。本年度は全国の盲学校のマッサージ指導実態を調査し、全ての盲学校で実施可能な標準指導カリキュラムの内容にしていく。</p> <p>(ハ)、日本より短期専門家7名を招聘し年2回の全国セミナーと約年4回の公開講座(地方開催)を行っていく。</p> <p>(二)、盲学校8校のうち3校は、実習指導を行う上での環境に不備がある。本年度は、3校のうち2校については新たにマッサージ施設を建設し実習、訓練が行える環境を整えていく。残り1校の施設建設については来年度の計画へ入れる予定である。なおマッサージ施設建設後は一般市民にも開放し、安価な料金でマッサージサービスを提供することで経営実習の場を設けるとともに、地域の人々に視覚障害者への理解を促していく。</p> <p>(ホ)、第1期生の指導実習を通して、各盲学校の現状にあった指導方法、教科書の内容を検討していく。</p> <p>(へ)、視覚障害者が行う医療マッサージの啓蒙活動として、視覚障害者の割合が多い、シャン州、サガイン州の地域でキャンペーンを行い、盲学校のない地域で盲学校へ通えない障害者の現状を調査し、視覚障害者教育、職業訓練の必要性について伝えていく。</p>
(4) 持続発展性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・盲学校でレベルに差があるため、今年度の指導実習を通して、指導カリキュラムの内容、教科書表記の仕方を再度検討し、事業終了時には全国一律のカリキュラム完成を目指す。</li> <li>・現在日本人専門家が長期に渡り訓練センターにて指導者育成に当たっているが、第3期事業終了後には第1期生より後継者を2名選出し、訓練センターを3年目以降も維持していけるよう、指導者を育成する人材を育てていく。</li> <li>・各盲学校に併設されるマッサージ施設に関しては、基本的に社会福祉省の管理下に置かれるが、実際の管理運営を担うのは各盲学校になるため訓練センター卒業生を中心に、施設の経営から管理運営を行っていく。</li> </ul>
(5) 期待される成果と成果を測る指標	<p>(イ)、本年度の事業終了時には、訓練センターの第1期生が「盲学校医療マッサージ教員免許」を取得し、全国の盲学校に医療マッサージ指導者が12名誕生する。また、訓練2年目の指導実習を通して、全盲学校合わせて120名前後の生徒が医療マッサージの指導を受け</p>

る事が出来る。

(ロ) 2014年には全国統一の標準指導カリキュラムが完成し、全ての盲学校に医療マッサージ専門課程が確立する。さらに社会福祉省の認可を受けることで、社会福祉省認定の医療マッサージ師が120名前後誕生することになる。

(ハ)、短期専門家を招聘し、2回の全国セミナーによって200名前後の視覚障害者、盲学校関係者、社会福祉省関係者らが集い、医療マッサージの専門知識、技術の習得だけでなく、他国の視覚障害者社会の現状を知りミャンマーの障害者社会の発展を考える手掛かりとする。また、公開講座では1名の専門家が2~3日を1コースとして8名の生徒らに対し指導を行う。公開講座は4名の専門家によって最低2コースずつ64名に対して実施して頂く。公開講座は全国セミナーと異なり、より細かい指導を受ける事ができ、個別指導に近い形で指導が受けられ、すでに社会人となった視覚障害者に対しても専門指導が受けられる機会となる。

(ニ) マッサージ施設を併設することで周辺地域住民に対しても医療マッサージサービスを提供でき、より質が高く、専門的なマッサージを提供することができると思う。現在5校の盲学校には既存のマッサージ施設があり、1カ月当たりの来客数は5校合わせて1,100名にのぼることから年間裨益者数は13,200人となる。専門的な医療マッサージが地域に広く受け入れてもらう為に年間13,200人以上の来客者に施術する。また、新しく新設する2校のマッサージ施設にて、1校あたりの1カ月の来客数は約100人が見込まれ、年間裨益者数は、2400人となる。両者合わせて15,600人の裨益数となる。

(ホ)、全国の盲学校で統一の標準医療マッサージカリキュラムを用いて指導が行えることが目標であり、本年度は1年目のカリキュラムの見直しを行い、来年度は2年目のカリキュラムの見直しを行う為3年計画で進められる。同様に、専門教科書の作成も3年を目処に進められる。

(ヘ)、本年度より盲学校のない地域でキャンペーンを行うことで、視覚障害者教育、職業訓練の必要性を呼び掛け、家族の中に視覚障害者が生まれた場合まずどこに相談したら良いのか、何を考えていかなければならないのか、などの道筋を立てられるよう地域関係者に対して働きかけていく。このキャンペーンを行う事によって小学校低学年の年齢の生徒の入学数が増加し、早くから点字教育が受けられ、基礎訓練を受けた上で職業訓練を受けられる視覚障害者が増える。

